

KiKiの広場

2014年 2月 1日

cafe NO.40
KiKi



2月は、いよいよ4年に1度の冬季オリンピックが開催される月ですね。身近に関係者はいませんが、我が子世代の若者が必至で努力している姿を見ると、頑張っ！と思うだけで涙がでそうになります。(年のせい?) 始まったら、根性入れて一生懸命応援したいと思います。みんなー！ファイトーっ！！

2月の予定

休館日	11日(火)
定休日	毎日曜日



「今月のケーキ」・・・「チョコレートケーキ」350円

柔らかいココアスポンジにカカオ分 62%の甘さを抑えたチョコレートクリームを重ね、アクセントのくるみとチョコレートクランチの、食感の絶妙なバランスが楽しめる本格派チョコレートケーキです。

今月のお気に入り・・・「雪の絵本」

～「黒ねこのおきゃくさま」「ふゆのはなし」「雪の日のたんじょう日」「はじめてのゆき」「北の魔女ロウヒ」などなど～



「こすずめのぼうけん」のエインズワース作の「黒ねこのおきゃくさま」は、心底人のいいおじいさんと突然現れた黒ねことのやり取りがとても微笑ましいです。雪の中に一匹の黒ねこといかに寒そうな表紙ですが、読んでいくうちにどんどん心が温くなるような優しくステキな絵本です。

「ふゆのはなし」は、スイスの作家でアルプスのふもとで暮らしていたクライドルフの作品です。森に住む3人の小人が主人公で、7年毎にあの7人の小人を訪ねていくんですが・・・「えっ、7人の小人？」そうなんです、目的はそこにやってくる白雪姫に会うという、不思議で幻想的なお話です。深い雪と氷を舞台にした透き通るように美しい一冊です。自然を見つめる繊細な眼差しを感じます。



今月の本棚・・・「鬼が出てくる絵本」

～「しょうとのおにたいし」「だごだごころころ」「こぶじいさま」「ももたろう」「いっすんぼうし」などなど～



「さるとかに」によく似た「しょうとのおにたいし」は、主人公が「しょうと(雀)」で仇が鬼という中国地方に伝わる昔ばなしです。どうしようもなく人がよくて、頼りがいのないおじぞうさんの耳の中に生んだ3個の卵を、3人の鬼に食べられてしまった「しょうと」が、そのかたき討ちに行きます。お供は、どんぐり・蟹・蜂・牛・臼・縄という面々。「さるとかに」同様、それぞれが役割を見事果たし、鬼をやっつけます。軽快な語り口と、生き生きと描かれた愛嬌のある絵が、このお話をより面白くしています。「だごだごころころ」は、文句なしに楽しめる昔ばなしです。食いしん坊の鬼に連れ去られたおばあさんを、赤とんぼが恩返しで助けるというお話です。赤とんぼが赤くなったわけもわかります。



ほっとフライク

週に1度、夕方にやって来られる2人組の女性のお客さま、店内では飲まれずいつもホッと黒豆ジュースを2つ、テイクアウトされます。ヒストリアのコミカレ(コミュニティカレッジ)に出られ、その帰りに寄られるようで、コミカレでも飲み物のケータリングがあるので、それぞれ帰りの車の中でも飲まれるのかなあと感じていました。それにしても・・・毎週来られるし必ずホッと黒豆ジュースだし、よほど好きなのかなあと、嬉しくもあり、ちょっぴり不思議にも感じていました。

先日思いきって、「ホッと黒豆ジュースがお好きなんですね。」と聞いてみました。すると、「実は子どもたちが大好きなんです。一度ここで飲んだことがあって、それ以来もって帰ると喜ぶので、買って帰ることにしてるんです。」と言われました。小学生の兄妹がいらっしやるとのことでした。いつもニコニコしながら2つ買われていたのは、そういう訳だったんですね。好きになってもらえて、私たちにとっても嬉しいお話でした。